



上小路神社



写真 [賀露神社ホームページ](#) より

上小路神社は千代平野が一望できる賀露町で一番高いところに鎮座し、樹木が少なく明るい広場状の境内です。祭神は、伊勢神宮に日本の総祖神としてお祀りしている「天照皇大神」（あまてらすおおみかみ）で、創建は不明ですが、600年くらい前の南北朝のころ、賀露村の上分の産土神として勧請されたと伝えられ、明応元(1492)年の棟札が現存しています。

江戸時代の棟札が15枚ほど残っていて、宝永4(1707)年の棟札が一番古く、300年余り前に社殿を修復していることがうかがえます。

※ 棟札（むなふだ、むねふだ） 建物の建築・修築の記録・記念として、棟木・梁など建物内部の高所に取り付けた札

古くより「神明宮」「神明社」「神明さん」と呼称され、特に農家の信仰が厚く、江戸時代から明治時代にかけて、「伊勢講」が氏子内に多く結成されていました。この名残が今も「お日待」として、各町内の信仰を集めています。

明和6(1769)年の高草郡神社御改帳をみると、
加路村

一、神明宮	祭日	九月朔日	
	社地	式拾九間	社 三尺四方
	神木	松	柿 葺
	神楽殿	竪 式間	
			横 壹間半
	石鳥居	上り一丈式尺	
		横 二間	

と、記載されています。

平成 3(1991)年まで立っていた石鳥居には、
右の柱に 天下和順日月清明国家 安全氏子繁栄
左の柱に 享和二任戌歳五月再建 木屋長兵衛在次
裏に 備後尾道住 石匠 嶋屋勘住十郎 定之
と、刻まれています。

石鳥居は享和 2 (1802) 年、当時上賀露の庄屋をつとめていた木屋長兵衛が再建奉納したもので、石材は尾道で嶋屋なる石工により鳥居に加工され、尾道から木屋所有の北前船で運ばれました。

ちなみに、賀露神社の社殿前の四角石灯笼も、尾道の同じ石工が製作し、寛政 12 (1800) 年に廻船連中が奉納しているものです。

神明社は、明治 4(1871)年に村社に列格、明治 40(1907) 年には神饌幣帛料供進社に指定されました。大正 12(1923)年、境内を拡張して社殿を新築し、周辺に小松三千本を植樹しました。斎館下の松林には土俵場も作られ、一区・二区の青年団や近郊の若者たちが奉納相撲をとっていました。

昭和 61(1986)年、鳥取空港滑走路延長工事に伴い、境内地を 5m切り下げ、社殿を新築し、境内に遊歩道を設置して、桜の木を植樹しました。

※ 神饌幣帛料供進(しんせんへいはくりょうきょうしん) 神社 地方財政から祭祀などのためのお金が支出されていた神社のこと

正月の初詣の参拜者が年々増加の傾向で、大晦日から神社の役員によって、ご神火が焚かれ、寒い中にも荘厳な雰囲気漂っています。神社の紋は「丸に三つ柏」で、主な建物は、本殿、幣殿、拝殿、参籠会館、神輿庫、収納庫が建ち並んでいます。

出典

賀露町自治会 (2009) 「賀露誌」

賀露地区健康づくり推進員会 健康ウォーク 2021